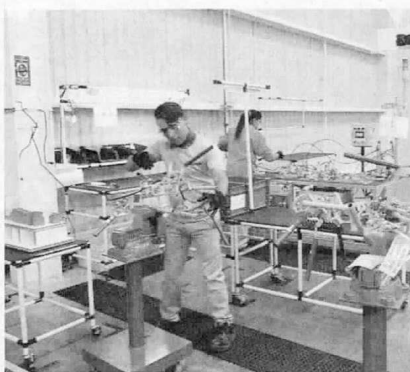


車部品の臼井国際産業



昨夏に引き続きメキシコでの生産を強化する(同国の既存工場)

自動車部品メーカーの臼井国際産業(清水町、星野俊彦社長)は10月、燃料噴射装置の部品などを製造する新工場をメキシコで稼働する。さびを防ぐためのメッキ加工などを手掛ける設備も導入し、同国の既存工場に比べて付加価値の高い製品を生産する。自動車の市場が伸びているメキシコの生産体制を強化して業績拡大につなげる。

メキシコに10月新工場

燃料噴射装置向けなど

高付加価値品を生産

自動車市場の伸びもあり県内企業のメキシコ進出は加速している



臼井国際産業が新設する工場は平屋で延べ床面積6000平方メートル。メキシコ市北西約360キロに位置する、シラオ市の約7万3500平方メートルの敷地に建設し、燃料噴射装置の部品や、エンジン周りの部品を生産する。建設費や設備費などを合わせた総投資額は15億円

県内製造業の進出加速 官民が支援策

(土地代は含まない)。新工場では製品をメッキ加工する設備のほか、部品同士を溶かした銅で接着するロウ付けに取り組み設備などを導入する。同社は昨年夏にメキシコで高圧対応の燃料噴射管などを生産する工場を稼働、2014年12月期は約7000万円の売り上げを見込む。既存工場ではメッキ加工やロウ付けは手掛けていなかった。同社は「新工場で作る製品の方が付加価値が高く、競争相手も限られてくる」とみる。

自動車関連情報のポータルサイト運営のマークライズによると、14年のメキシコ国内の生産台数(乗用車)は約191万台だった。10年比で3割増の水増しで、メキシコは「経済成長が期待されることに加え、多くの国と自由貿易協定(FTA)を結んでいるため、世界各国への輸出拠点として重要性が高い」(マークライズ)という。製品は日産自動車など日系の完成車メーカーや外資メーカーに広く販売する。臼井国際産業の14年12月期の売上高は910億円を見通す。18年12月期の目標売上高を1300億円としており、そのなかで「メキシコは50億円を目指す」とする。

製造業を中心に県内企業のメキシコ進出は加速している。県企業立地推進課のまとめによると、2014年の同国における県内企業の事業所数(4月1日時点)は20カ所だった。10年比で約3倍に増えており、その多くが製造業

だ。未進出の企業でも模索の動きは増えていることから、官民で進出を支援する動きも活発になっている。静岡県は1月下旬に現地の工業団地などを視察するツアーを初開催した。湖西市商工会も同様

の視察ツアーを3月に初めて実施した。昨年12月には静岡銀行が企業のメキシコでの事業展開を後押しするため、現地の大手銀行のBVAバンクと提携した。今後、サポート体制の整備がさらに進めば、県内企業のメキシコ進出の動きが増える可能性は高い。